

田立のお茶パン 給食に

蘇南高 3 年生が開発

南木曾中

南木曾町の南木曾中学校(金森茂校長、102人)の給食にこのほど、蘇南高校の3年生5人が昨年の授業で1年をかけて開発した「田立のお茶パン」が登場した。田立産の緑茶の葉を生地に練り込んだパンで、高校生が地域活性化を願い、苦労して開発したパンの味を楽しんだ。

蘇南高・経営シシネス系列の新谷泰基君(18)らが、必履修科

目「総合研究」の時間に「地域活性化」南木曾の食材を使った商品

パン製造・販売「なつやけ工房ムツムツ」と共同開発した。昨年12月下旬に中学校で総合研究の成果を聞く会が開かれ、新谷君らがパンを紹介したところ、中学生から

「食べてみたい」と声が上がった。

校内放送では「地元

の食材が使われたパンをゆっくり味わって」とする新谷君のメッセージが紹介された。1年生の丸野愛海さん(13)は「すごくおいしかった」と喜び、青

山友衣奈さん(13)は「見た目も緑茶を使ったという感じで良い。あんこや蜂蜜をトッピングしてもおいしそう」と話していた。

(細野はるか)



蘇南高校の3年生が開発した「田立のお茶パン」